



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO(国際連合食糧農業機関)日本事務所
2010年7月22日

LOJAPR10/19-No.168

プレスリリース

ジャトロファ-貧しい人のためのバイオエネルギー作物 FAO/IFAD がジャトロファ開発の貧困撲滅の可能性を検討する

2010年7月22日、ローマ-FAOと国際農業開発基金(IFAD)の発表した報告書によると、バイオディーゼル生産のためにエネルギー作物であるジャトロファを使うことが、特に開発途上国における半乾燥及び辺境地域の貧しい農民に裨益しうる。

しかし、報告書はジャトロファが依然基本的に野生の植物で、作物改良が必須であると強調する。ジャトロファが途上国における石油の輸入の顕著な代替物になることを期待するのは非現実的である。

「油料作物としてのジャトロファ開発に関する多くの実際の投資及び政策決定は、十分な科学的根拠に基づく知識の裏づけなしに行われてきた」、と報告書は述べている。「ジャトロファの真の可能性を実現するためには事実を主張や半端な真実から切り離して考える必要がある。」

有望な作物

ナンヨウアブラギリ(学名: *Jatropha curcus* L.)は、農業には辛うじて適している乾燥地の劣化した土壌でも比較的良好に生育する。丈の低いジャトロファの根は、土壌深くの水分を摂取することができる。地表の根は、土壌の固定を支援し、土壌浸食を削減することができる。

ジャトロファ種子は、化石燃料より汚染の少ないバイオディーゼルとして加工され、農村の貧しい世帯に灯りや調理燃料を提供することができる。加工の副産物として生じる油かすは、解毒後、肥料や動物飼料として貴重なものとなる。トウモロコシなどの他のバイオ燃料作物と違い、ジャトロファは食用ではなく、食用作物を育てることができない限界的で劣化した土地で育てることができる。

2008年には、ジャトロファはアジアで76万ha、アフリカで12万ha、ラテンアメリカで2万ha、世界で推定90万haに作付けされた。2015年までには、ジャトロファは1,280万haに作付けされると推定される。アジア最大の生産国はインドネシアとなろう。ガーナ及びマダガスカルがアフリカでは最大の生産国となり、ラテンアメリカでは、最大の生産国はブラジルとなるであろう。

報告書は、乾燥した辺境地で肥料や運送費用などの投入材の高価格で食料生産の優位性のない場所でジャトロファの最大の可能性がある」と述べている。しかし、乾燥地で土壌劣化が進んだ地域で持続的な単収を得るためには、水や肥料などの投入材の導入が必要である。

特に小規模農家、搾油工場との契約農家及び共同体プランテーションプログラムの一員や民間企業によるジャトロファプランテーションの労働者たちは、ジャトロファ生産から所得を得ることができる。

ジャトロファ栽培は、ジャトロファ油を燃料とする製粉機が、女性の単調な仕事を削減するために、特に女性に裨益する。また、伝統的なバイオマスの調理用燃料からジャトロファを燃料とする調理用コンロに変えることは、煙のない環境で調理をすることができ、燃料の薪を集める時間も節約できて、健康的でもある。燃料用薪の利用が減ることで、森林資源への圧力も軽減できる。

「ジャトロファはやがて高単収作物へと進化しうる作物で、降雨量の少ない劣化した塩類土壌の地域でも生産性の高い作物ともなりうる」と、FAO・IFAD の報告書は述べている。「副産物は肥料、家畜飼料、バイオマスガス原料として貴重なものとなり、油は、石鹼、殺虫剤、医薬品のような市場でも利用でき、更にジャトロファは土壌劣化を改善することもできる。

改善の余地

しかし、FAO・IFAD の研究はまた、この植物について品種改良がほとんど行われておらず、種子の単収、油の質、油分含有量が非常に不安定であることを強調している。現在生育されているジャトロファの多くは有毒で、油かすは家畜飼料としての利用が不適當であり、人体にも安全上の問題を起こしうる。

報告書は、より良い無毒のジャトロファ品種、高品質種子及び保全農業や統合的病虫害栄養管理を含む農法の改善に関する研究も支援されるべきであると述べている。

英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/44142/icode/>